

坂の上の雲ミュージアムでのイベントガイド(予定)

坂の上の雲ミュージアムでは、小説『坂の上の雲』の主人公たちの生誕イベントをはじめ季節ごとに様々なイベントを行っております。

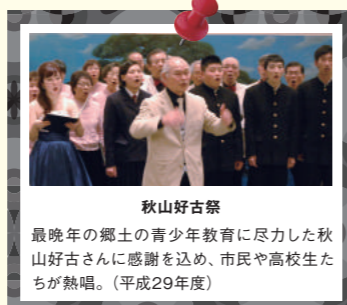
9月 ごろ	正岡子規祭
1月 ごろ	秋山好古祭
3月 ごろ	秋山真之祭
3月 11日	東日本大震災復興祈念コンサート



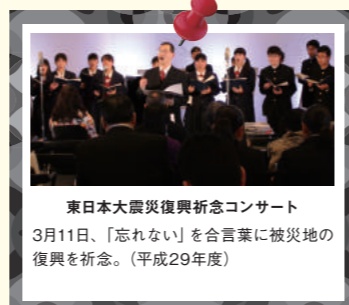
秋山真之祭
真之の生誕を祝い、坂の上の雲ミュージアムでコンサートなどのイベントを行います。(平成29年度)



正岡子規祭
子規の随筆を朗読する文学座(東京都)の作家、瀬戸口郁さん(右)と俳優、佐川和正さん。(平成29年度)



秋山好古祭
最晩年の郷土の青少年教育に尽力した秋山好古さんに感謝を込め、市民や高校生たちが熱唱。(平成29年度)



東日本大震災復興祈念コンサート
3月11日、「忘れない」を合言葉に被災地の復興を祈念。(平成29年度)

※写真はすべて平成29年度のもです。



特集: フィールドミュージアムとは?

松山の学生がつくるまちづくりフリーペーパー

まちづくり
MATSUYAMA NEWS PAPER

最終号!

発行 「坂の上の雲ミュージアム」指定管理者 四国ビジネス株式会社 愛媛支店
松山市一番町3丁目20番地
☎089-915-2600

編集 まちづくり!! まつやま新聞 編集委員会
協力 坂の上の雲ミュージアム
制作 専門学校松山ビジネスカレッジ
クリエイティブ部

配布先 松山市内の所有施設(一部を除く)ほか、坂の上の雲ミュージアム、ロープウェイ駅舎、道後温泉観光案内所ほか
観光拠点で無料配布

坂の上の雲ミュージアムから始めよう



「まちづくり!! まつやま新聞」のバックナンバー。若者ならではの視点でフィールドミュージアムを訪ね、誌面で紹介しました。

坂の上の雲ミュージアムが開設した平成19年から10年間、松山市内に住む学生たちが「まちづくり」をテーマに取材制作したミニコミ誌。同ミュージアムから年2回、発行しました。制作に携わった学生たちはフィールドミュージアムをキャンパスに文化、観光、物産などの資源を見つけ、その資源を磨いている人々たち取材。若者ならではの視点や感覚を生かして地域を学び、市民や観光客に発信しました。初代編集長を経て市内の広告代理店に就職した亀井雅子さんは「まちやま新聞を通して、松山の魅力と誇りに気づかされ、地域のために何かしたいという気持ちが育ちました」と振り返りました。

坂の上の雲ミュージアムと共に10年 松山の学生・若者が制作しました

坂の上の雲ミュージアムでは「坂の上の雲」ゆかりの資料を展示しているほか、明治、昭和初期の松山市内の写真などがパソコンで検索できます。2Fホールではフィールドミュージアムを紹介するVTRを放映、観光ボランティアガイドが待機。ホールに隣接するミュージアムカフェには、「坂の上の雲」関連の書籍や司馬遼太郎さんの著作が並び本棚があり、広いガラス窓越しに松山城の緑の中に映える国重要文化財「萬翠荘」を眺めながら、伊予松山銘菓や県産シユースなどが味わえます。

「坂の上の雲」を感じるまち

司馬遼太郎さんの小説『坂の上の雲』の主人公公正岡子規、秋山好古、真之兄弟は伊予松山出身です。物語にはこの3人を中心に明治という時代を築いていった人々の姿がイキイキと描かれています。明治という時代は世界の中で日本という近代国家が産声をあげ、さまざまな困難と向き合いながら、ひたすら前のみを見つめて成長した青春期でした。松山市内には小説ゆかりの史跡や資料、足跡が数多くあります。松山市では市内全体を「屋根のない博物館」「坂の上の雲」フィールドミュージアムとして見立て、多くの人々が巡ることができるよう中核施設として坂の上の雲ミュージアム各地に案内板や解説板などを整備しています。「おもてなし日本」を目指す伊予松山で、小説の主人公たちや明治という時代の息吹に触れ、今とこれからを生き抜く「元気の種」を見つけてみませんか?



各地域について

センターゾーン
中心市街地。交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に、松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡や施設も多い。

サテライトゾーン
道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忍那諸島の6つの地域を設定し、固有に地域資源を活かしたまちづくりを進めている。

サテライト
小説ゆかりの地を含む地域資源で構成されている。センターゾーン、サテライトゾーンを結び役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高める。

坂の上の雲ミュージアム人気スポット



ミュージアムカフェでゆったり



外観は撮影スポットとして人気



▲松山観光ボランティアガイドの皆さん。地元住民ならではの知識や経験を活かし、フィールドミュージアムの魅力を伝えています。

坂の上の雲ミュージアム周辺のセンターゾーンには松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など「坂の上の雲」ゆかりの史跡や施設が点在。また、電車やバスで道後温泉や三津浜・梅津寺などサテライトゾーンを訪ねることが出来ます。

私たちがご案内します!

お遍路さんをもてなし1200年 サブセンターゾーン

久谷・砥部周辺

郊外の里山地域。久谷は遍路始祖・衛門三郎の故郷で、遍路道沿いに四国霊場の札所や遍路遺跡が点在。築100年の遍路宿坂本屋は、お遍路さんの休憩所として地元住民がお接待を続けている。砥部町は県の伝統工芸品「砥部焼」の里として知られる。



お遍路さんをお接待する坂本屋

発見!!まちを歩けば 其の二

フィールドミュージアムをめぐることができるよう市内各地に案内サインや案内板を設置。「坂の上の雲」ゆかりの施設や跡地には解説板を整備しています。



▲案内サイン
目的地の方向や距離を記したサイン。



▲案内板
JR松山駅、松山市駅、道後温泉駅、大きな通りなどに設置。広域情報が記される。



▲解説板
「坂の上の雲」ゆかりの施設や跡地に設置。当時の写真、小説の抜書、挿絵なども記される。



▲インフォメーション
交通拠点や観光スポットなどに設置。動画による句の情報を発信している。

水軍文化と瀬戸内風情 サブセンターゾーン

風早、忽那諸島



▲有人島9島を含む30以上の島々からなる忽那諸島



▲明治6年に竣工された釣島灯台

発見!!まちを歩けば 其の三

松山といえば俳句。道を歩けば句碑や歌碑が点在し、市内電車の車両には全国から公募した魅力的な言葉が記され、観光スポットには俳句ポストが整備。フィールドミュージアムを巡り、一句ひねってみませんか。



▲道後温泉周辺で人気の人力車

車夫さんの
解説も名調子

観光客に大人気! サブセンターゾーン



道後温泉本館

「坂の上の雲」の主人公たちの故郷・伊予松山は温暖な瀬戸内海の気候と豊かな土壌に恵まれるうえ、日本最古の温泉、道後温泉には神話の時代から名高い文人墨客が訪れてきた歴史があります。また、古代から瀬戸内水軍の拠点として海外の人やモノ、情報が活発に入ってきたほか、鎖国と封建制度に育まれた江戸時代においても全国から訪れる四国遍路などによって刺激され、熟成。明治という時代が訪れると湧き上がる夏の雲のように文学や芸術、デザイン、挿絵、芝居などさまざまな分野で和魂洋才あふれる近代的大衆文化のけん引者を輩出。その足跡は市内各地に刻まれています。

みちはまるごと

電車に乗って、バスに乗って、坊っちゃん列車に乗って、歩いて、『坂の上の雲』を追いかけよう。

フィールドミュージアムじゃ



OHH! WONDERFUL

小説の世界を体感! センターゾーン



ロープウェイ駅舎

主人公たちが産声をあげた城下町松山の中心地。主人公たちが少年時代を過ごした生家跡や遊び場、学校跡など物語に登場する場所が点在。また、道後温泉や松山城、萬翠荘などの観光スポット、ロープウェイ街に大道道や銀天街などの商店街が続き、汽笛を響かせながら明治時代の列車に模した「坊っちゃん列車」が市街地を走るなど、多くの観光客を魅了しています。

文学&町民文化 サブセンターゾーン

松山総合公園、三津浜・梅津寺

瀬戸内海の港町風情が今も息づく三津浜は主人公たちが青雲の志を抱いて旅立ち帰省した町。学生時代の正岡子規が俳句の手ほどきを受けた町。梅津寺には秋山兄弟の銅像がたたずんでいます。松山総合公園は松山城下と瀬戸内海が一望できる花と緑の公園として市民に親しまれています。



▲三津の渡し
三津浜には瀬戸内海の拠点として繁栄した江戸時代～昭和の町並みが息づく。中世から続く渡舟「三津の渡し」は今も健在。



▲庚申庵史跡庭園
江戸時代の俳人で小林一茶とも親交の深い栗田禱堂の庵。現在は市民の文化活動・憩いの場として親しまれている。

まちを歩けば 其の一



▲雲形のナンバープレート
松山市内で見かける原動機付自転車のナンバープレート。「坂の上の雲」の舞台にふさわしく雲をイメージし、平成19年に導入された。